

組合員・利用者本位の業務運営に関する取組状況および K P I 実績値の公表について

- 当組合は、食と農を基軸として地域に根ざした協同組合として、助け合いの精神のもとに、持続可能な農業と豊かで暮らしやすい地域社会の実現を理念として掲げ、「組合員・利用者本位の業務運営に関する取組方針」を公表するとともに、組合員・利用者の安定的な資産形成への貢献するための具体的な取組みを実践しており、今回その取組状況を公表いたします。
- また、上記とあわせ金融庁より各金融機関に対し公表が期待される「お客様本位の良質な金融商品・サービスを提供する金融事業者をお客さまが選ぶうえで比較することができる統一的な指標」（「比較可能な共通 K P I 」）も同時に公表いたします。

能登わかば農業協同組合

I.取組状況

1 組合員・利用者への最良・最適な商品、共済仕組みサービスの提供

(1) 信用の事業活動

【原則2本文および(注)、原則3(注)原則6本文および(注2、3)】

- ・ 組合員・利用者へ提供する金融商品は、特定の投資運用会社に偏ることなく、社会情勢や手数料の水準等も踏まえたうえで、組合員・利用者の多様なニーズにお応えし、長期安定的な資産形成・運用に資する最適な投資信託を取り扱っております。なお、当組合は、金融商品の組成に携わっておりません。
- ・ JAバンク全体では商品新規導入を行う際は、第三者評価機関からの意見を伺いながら、お客様のニーズに合った商品を取入れ、パフォーマンスが芳しくない場合は取扱いを行わない等、定期的な商品ラインアップの見直しを行っております。それにより以下のように商品数が増減いたします。

<投資信託の取扱い商品ラインナップ(2024年3月末時点)>

カテゴリ	国内	海外
債券型	1 (前年度末：1)	7 (前年度末：4)
株式型	4 (前年度末：4)	6 (前年度末：6)
REIT型	2 (前年度末：2)	3 (前年度末：3)
バランス型	8 (前年度末：8)	

※ 現在、新規でお申込みいただけないファンドも含まれておりますが、公社債投信は含んでおりません。

<商品選定の考え方>

長期投資

- ▶ 長期投資を前提とした投資信託であること

手数料

- ▶ 手数料が良心的な水準であること

運用実績

- ▶ 過去の運用実績が相対的に良好であること

将来性

- ▶ 資産形成層には、過度に分配金を捻出する投資信託ではないこと

運用体制

- ▶ 運用体制について、外部機関の評価を得ていること

※商品選定の考え方：JAバンクHP
<https://www.jabank.org/sp/tameru/tousi/sintaku/select/>

I.取組状況

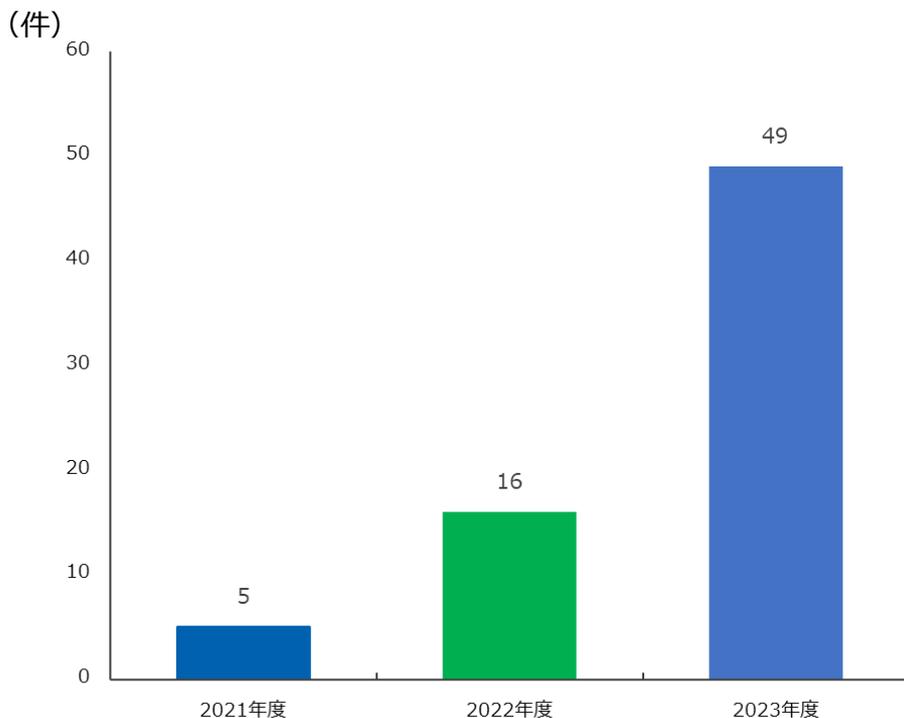
2 組合員・利用者本位の提案と情報提供①

【原則2本文および(注)、原則5本文および(注1～5)、原則6本文および(注1、2、4、5)】

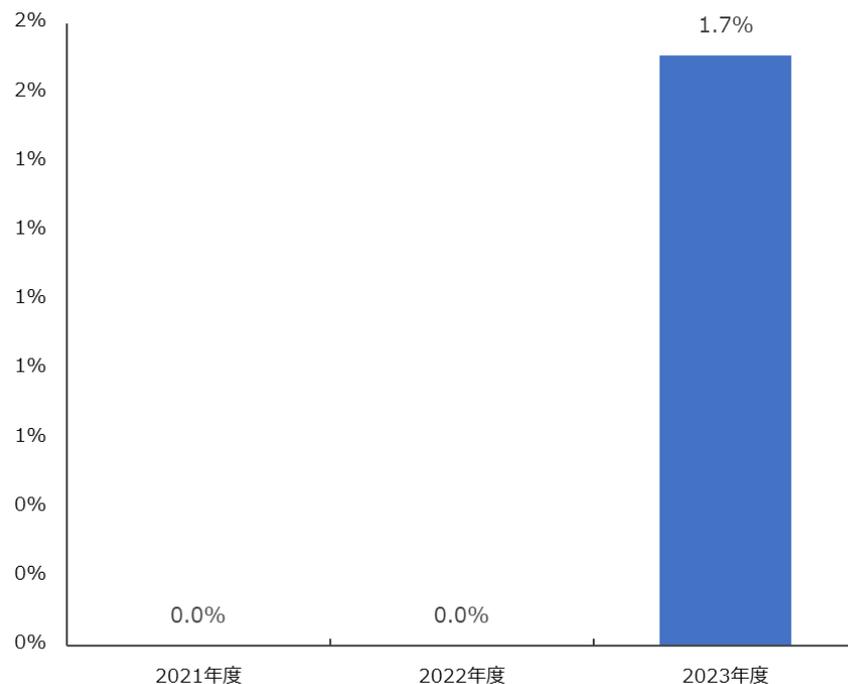
(1) 信用の事業活動

- 組合員・利用者の皆様に安定的な運用成果をご享受いただくために、組合員・利用者の金融知識・経験・財産、ニーズや目的に合わせて適切な情報提供を行うとともに、分散投資・長期投資の有用性をご提案した結果、「投信つみたて」を利用される組合員等が増加しました。

<投信つみたて契約件数の推移>



<購入額に占める毎月分配型ファンドの比率>



I. 取組状況

2 組合員・利用者本位の提案と情報提供②

【原則4、原則5本文および（注1～5）、原則6本文および（注1、2、4、5）】

(1) 信用の事業活動

- 組合員・利用者の皆様の投資判断に資するよう、商品のリスク特性・手数料等の重要な事項について分かりやすくご説明し、必要な情報を十分にご提供するために、J Aバンクセレクトファンドマップ、J Aバンクファンドマップ等を活用のうえ簡潔かつ分かりやすい情報提供を実施しました。
- なお、2022年4月から重要情報シートを導入しております。

JAバンク セレクトファンドマップ

2024年1月

保有する資産をのりでの「コア(中核)資産」と
攻めの「サテライト(衛星)資産」に分けて運用する方法

＜イメージ＞
コア
 (安定型)は運用を安定させ、
 バランスをキープする
 安定型の投資ファンドと
サテライト
 (中間型・積極型)は成長を期待する
 成長型の投資ファンドなど

2024年1月

JAバンクのセレクトファンド

JAバンクのセレクトファンドは、
国内約 6,000 本の中から、
JAバンクが独自の基準で
長期投資に適した投資信託を厳選しました。

主な選定基準等

- 1 長期投資 長期投資を前提とした投資信託であること
- 2 手数料 手数料が優遇的な水準であること
- 3 運用実績 過去の運用実績が相対的に良好であること
- 4 将来性 投資形態には、適度な分配金を支払う必要があること
- 5 運用体制 運用体制について、外部機関の評価を得ていること

お家でできる長期投資にとって
最適な提案を届けて、投資信託を
厳選しているんだね!

一定の投資性金融商品の販売・販売仲介に係る「重要情報シート」
(金融商品販売)

1. 当該商品の基本情報 (当該商品は投資性金融商品の販売 (又は販売仲介) をする者です)		
組合員名	経費付がば農業協同組合	
組合員番号	北陸財務局長 (登録) 第79号	
個人番号	あゆみさん	
詳細商品の概要を記したウェブページ	http://ja-nishinokawabank.jp/	

2. 当該商品の概要 (当該商品は各事項に該当できる金融商品の種類は次のとおりです)

項目 (投資性)	○	否 (投資性なし)	—
国内株式	—	外国株式	—
円建て債券	—	外国建て債券	—
特殊な債券 (社債等)	—	投資信託	○
ファンドタイプ	—	ETF、ETN	—
REIT	—	その他上場商品	—
保険 (投資以外)	—	保険 (投資以外)	—
この以外の商品	—	○	—

※ 他に該当する商品があります。

3. 当該ファンドの考え方や (商品) 選定のコンセプトや特徴は次のとおりです

J Aバンクでは、いろいろな「投資」に関する好みや「商品」を揃えています。お客さまにとっての選びやすさも考慮し、一定の商品に絞って「J Aバンク セレクトファンド」をご用意しております。また、三菱UFJモルガンスタンレー証券株式会社が投資一任業務とするファンドサービス (J Aバンク資産運用サービス) を提供しております。

【J Aバンク セレクトファンドの考え方】
 「J Aバンク セレクトファンド」のラインナップは、主に以下の基準をもとに商品を選定しております。選定にあたっては外部機関の信用情報も参考にしております。安定型のみ商品の種類を運用期間別のモニタリングも行っております。
 ① 手数料 手数料が優遇的な水準であること
 ② 運用実績 過去の運用実績が相対的に良好であること
 ③ 将来性 この将来性について、長期にわたって運用を期待している商品に絞って、適度な分配金を支払う必要があること
 ④ 運用体制 運用体制について、外部機関の評価を得ていること
 (上記の考え方には、ホームページにも掲載しております)
<https://www.jabank.org/bp/tamuru/tousisintaku/welck/>
 なお、投資に関するお問い合わせは、J Aバンクでは、都府県別の投資信託 (※1) を提供し、投資信託に関するお問い合わせは、都府県別の投資信託 (※1) に関するお問い合わせ先 (※2) へお問い合わせください。
 ※1: J Aバンクでは、各都府県別の投資信託 (※1) を提供し、投資信託に関するお問い合わせは、都府県別の投資信託 (※1) に関するお問い合わせ先 (※2) へお問い合わせください。
 ※2: J Aバンクでは、各都府県別の投資信託 (※1) を提供し、投資信託に関するお問い合わせは、都府県別の投資信託 (※1) に関するお問い合わせ先 (※2) へお問い合わせください。

【ファンドサービス (J Aバンク資産運用サービス) について】
 セレクトサービスは、お客さま一人ひとりが資産運用にかかる手間やリスクを軽減し、お客さまの資産運用をサポートしていただくためのサービスです。お客さまの資産運用に関するお問い合わせは、お客さまの資産運用に関するお問い合わせ先 (※2) へお問い合わせください。
 お客さまの資産運用にあたっては、投資信託の運用に関するお問い合わせ先 (※2) へお問い合わせください。お客さまの資産運用に関するお問い合わせは、お客さまの資産運用に関するお問い合わせ先 (※2) へお問い合わせください。

4. お問い合わせ

相談窓口 (投資信託)	0767-53-8905
個人番号共通の相談窓口	あゆみさん
金融庁サービス利用者センター	0570-016811 (03-5251-6811)

能登わかば農業協同組合
登録金融機関 北陸財務局長 (登録) 第79号

3 利益相反の適切な管理 【原則3本文および（注）】

- 組合員・利用者の皆さまの利益を不当に害することがないように、「利益相反管理方針」に基づき、適切に管理しております。
- 営業部門から独立した監査室を設定のうえ、利益相反のおそれのある取引を特定し利益相反を管理しております。
- 以下の観点で利益相反のおそれのある取引を類型化し、効率的に管理することで、遺漏なく利益相反取引を検知する体制を整えています。
 - ①組合員・利用者の皆さまと当組合の間の利益が相反する類型
（例：経済事業を利用する際の前提として、共済事業の利用を条件とする場合）
 - ②特定の組合員・利用者の利益を他の組合員・利用者の皆さまの利益より優先する取引
（例：接待・贈答を受け、または行うことにより、特定の取引先との間で一般的な水準から乖離した水準で取引を行う場合）

4 組合員・利用者本位の業務運営を実現するための人材の育成と態勢の構築

① 組合員・利用者本位の業務運営を実現するための人材の育成と態勢の構築

- 当組合は、研修による指導や資格取得の推進を通じて、高度な専門性を有し誠実かつ公正な業務を行うことができる人材の育成を図り、組合員・利用者本位の業務運営を実現するための態勢を構築しております。

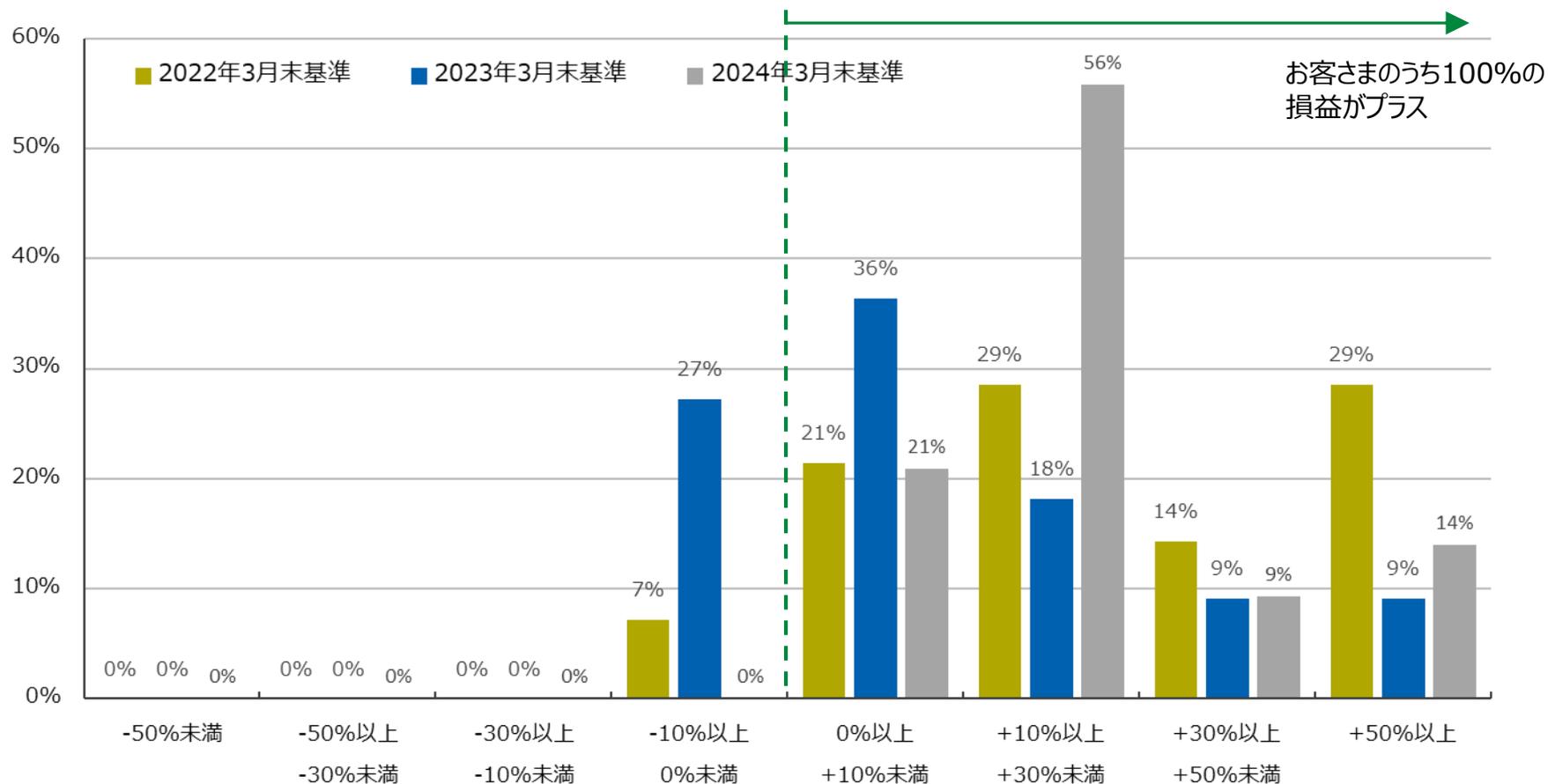
② 組合員・利用者の皆さまの声を活かした業務改善

- 当組合は、組合員・利用者さまから寄せられる「声（お問合せ・ご相談、ご要望、苦情など）」を真摯に受け止め、その声に込められた「思い」を大切に業務改善に努めております。

Ⅱ.比較可能な共通 K P I

1 運用損益別顧客比率（投資信託）

- 「運用損益別顧客比率」は、組合員・利用者の皆様へ長期・分散投資やつみたて投資をご提案してきたことにより、2024年3月末時点では全体の100%のお客さまの損益がプラスとなりました。

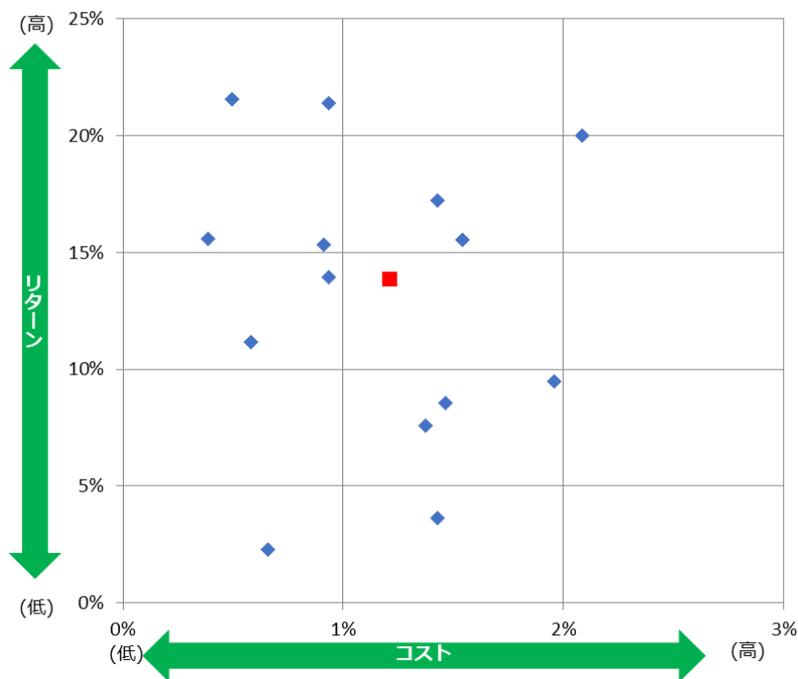


Ⅱ.比較可能な共通K P I

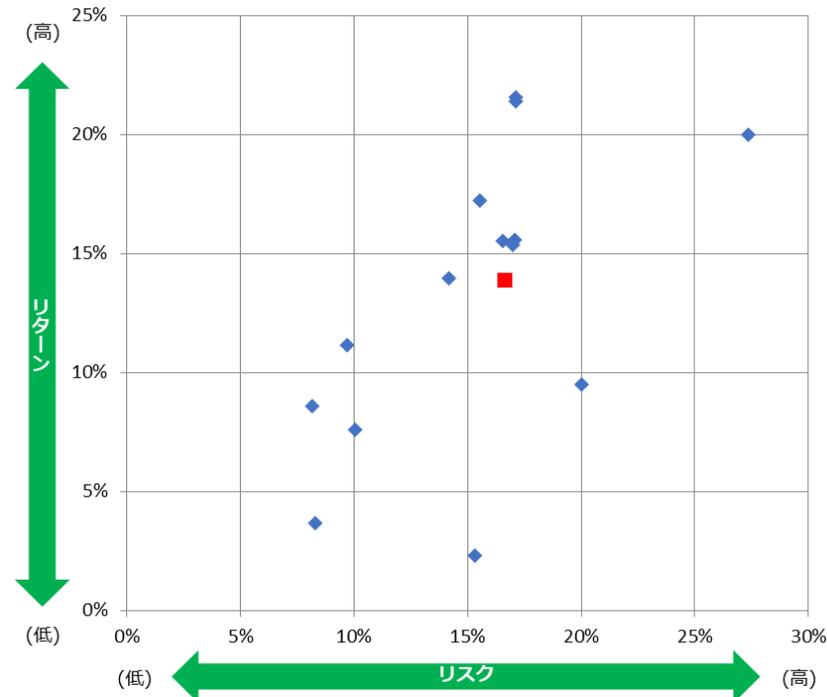
2 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (1/3) (2024年3月末)

- J Aバンクでは、取扱うファンドの運用実績を組合員・利用者本位の業務運営の観点に基づきチェックし、運用実績が優良なファンドを選定しております。
- 2024年3月末時点の預り残高上位20銘柄の平均コスト1.21%、平均リスク16.63%に対して、平均リターンは13.86%でした。

<預り残高上位20銘柄のコスト・リターン>



<預り残高上位20銘柄のリスク・リターン>



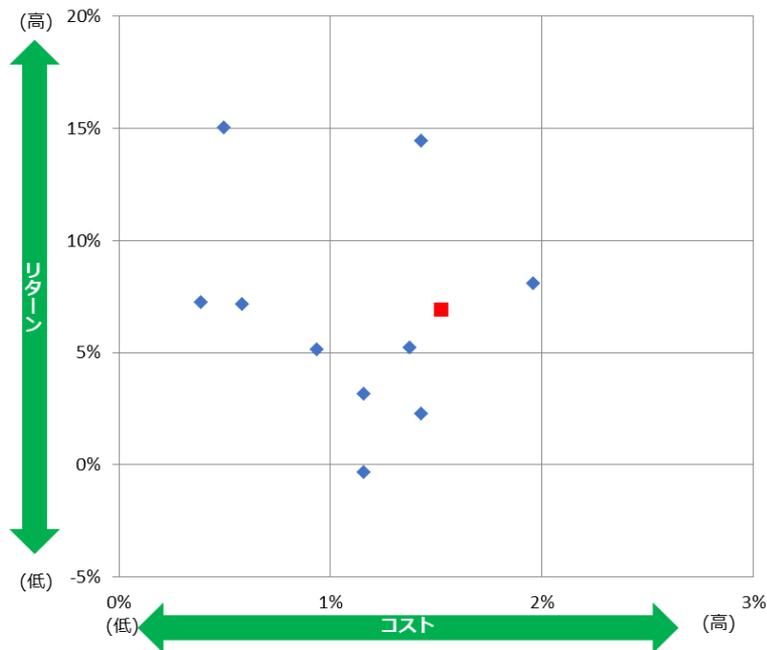
※ 各ファンドのコスト・リスク・リターンは、次のページに記載しております。
※ 赤い点は平均値を示しています。

Ⅱ.比較可能な共通 K P I

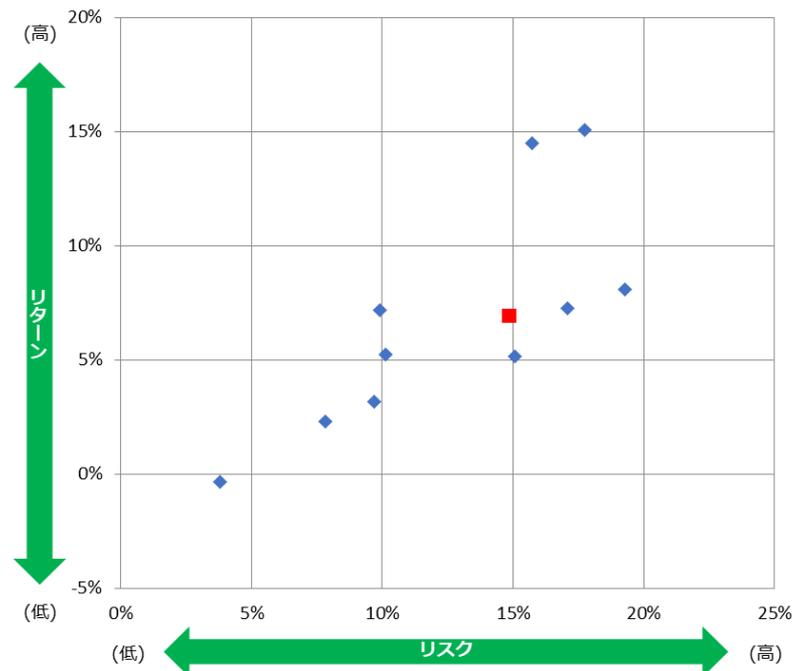
2 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (2/3) (2023年3月末)

- 2023年3月末時点の預り残高上位20銘柄の平均コスト1.53%、平均リスク14.86%に対して、平均リターンは6.94%となりました。

<預り残高上位20銘柄のコスト・リターン>



<預り残高上位20銘柄のリスク・リターン>



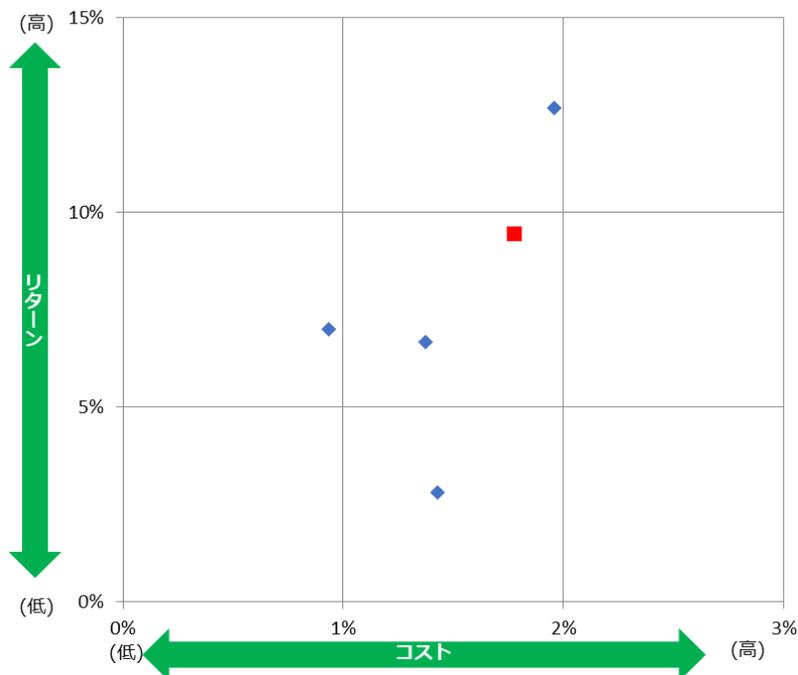
※ 各ファンドのコスト・リスク・リターンは、次のページに記載しております。
※ 赤い点は平均値を示しています。

Ⅱ.比較可能な共通 K P I

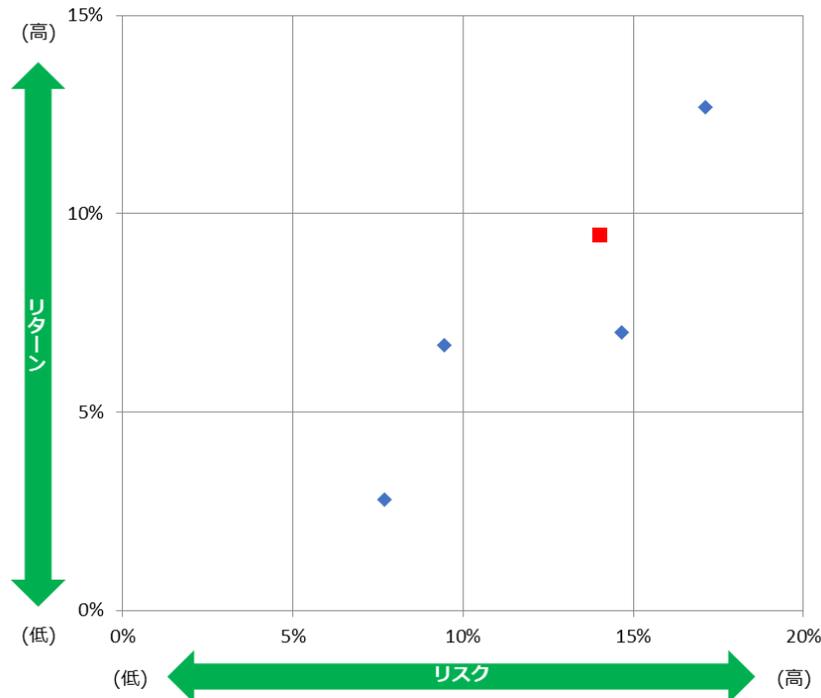
2 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (3/3) (2022年3月末)

- 2022年3月末時点の預り残高上位20銘柄の平均コスト1.78%、平均リスク14.02%に対して、平均リターンは9.46%でした。

<預り残高上位20銘柄のコスト・リターン>



<預り残高上位20銘柄のリスク・リターン>



※ 各ファンドのコスト・リスク・リターンは、次のページに記載しております。
※ 赤い点は平均値を示しています。

Ⅱ.比較可能な共通 K P I

3 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (1/3) (2024年3月末)

	ファンド名	運用会社	リターン (年率)	リスク (年率)	コスト 全体
1	つみたてNISA米国株式 S&P500	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	21.55%	17.11%	0.50%
2	ダイワ・グローバルREIT・オープン	大和アセットマネジメント(株)	9.47%	20.01%	1.96%
3	DIAMハッピークローバー毎月決算コース	アセットマネジメントOne(株)	3.64%	8.31%	1.43%
4	米国株式 S&P500インデックスファンド	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	21.40%	17.11%	0.94%
5	つみたてNISA日本株式 日経225	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	15.57%	17.06%	0.39%
6	セゾン・グローバルバランスファンド	セゾン投信(株)	11.15%	9.72%	0.58%
7	JATOPIXオープン	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	13.95%	14.20%	0.94%
8	長期厳選投資 おおぶね	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	17.22%	15.52%	1.43%
9	農中日経225オープン	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	15.34%	17.00%	0.91%
10	ベイリー・ギフォード世界長期成長株ファンド	三菱UFJアセットマネジメント(株)	19.98%	27.37%	2.08%
11	J-REITインデックス(毎月分配型)	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	2.28%	15.30%	0.66%
12	セゾン資産形成の達人ファンド	セゾン投信(株)	15.53%	16.54%	1.54%
13	グローバル・インカムフルコース(為替ヘッジなし)	三菱UFJアセットマネジメント(株)	8.56%	8.16%	1.46%
14	世界の財産3分法ファンド(毎月分配型)	日興アセットマネジメント(株)	7.59%	10.06%	1.38%
15					
16					
17					
18					
19					
20					
	残高上位20ファンドの残高合計/残高加重平均値		13.86%	16.63%	1.21%

※ 2024年3月末基準時点における共通KPIの対象となるファンド数は14本となります。

※ 当指標は、設立から5年が経過したファンドを対象として、リターン・リスク・コストを算出して表示しております。

Ⅱ.比較可能な共通 K P I

3 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (2/3) (2023年3月末)

	ファンド名	運用会社	リターン (年率)	リスク (年率)	コスト 全体
1	ダイワ・グローバルREIT・オープン	大和アセットマネジメント(株)	8.09%	19.30%	1.96%
2	D I A Mハッピークローバー毎月決算コース	アセットマネジメントOne(株)	2.31%	7.81%	1.43%
3	つみたてN I S A米国株式 S & P 5 0 0	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	15.05%	17.74%	0.50%
4	日米6資産分散ファンド(安定運用コース)	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	-0.34%	3.81%	1.16%
5	日米6資産分散ファンド(資産形成コース)	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	3.16%	9.68%	1.16%
6	J A T O P I Xオープン	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	5.17%	15.06%	0.94%
7	つみたてN I S A日本株式 日経225	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	7.26%	17.10%	0.39%
8	世界の財産3分法ファンド(毎月分配型)	日興アセットマネジメント(株)	5.23%	10.14%	1.38%
9	長期厳選投資 おおぶね	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	14.48%	15.74%	1.43%
10	セゾン・グローバルバランスファンド	セゾン投信(株)	7.18%	9.92%	0.58%
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
	残高上位20ファンドの残高合計/残高加重平均値		6.94%	14.86%	1.53%

※ 2023年3月末基準時点における共通 K P I の対象となるファンド数は10本となります。

※ 当指標は、設立から5年が経過したファンドを対象として、リターン・リスク・コストを算出して表示しております。

Ⅱ.比較可能な共通K P I

3 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン (3/3) (2022年3月末)

	ファンド名	運用会社	リターン (年率)	リスク (年率)	コスト 全体
1	ダイワ・グローバルREIT・オープン	大和アセットマネジメント(株)	12.69%	17.12%	1.96%
2	D I A Mハッピークローバー毎月決算コース	アセットマネジメントOne(株)	2.80%	7.69%	1.43%
3	世界の財産3分法ファンド(毎月分配型)	日興アセットマネジメント(株)	6.67%	9.44%	1.38%
4	J A T O P I Xオープン	農林中金全共連アセットマネジメント(株)	7.00%	14.67%	0.94%
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
	残高上位20ファンドの残高合計/残高加重平均値		9.46%	14.02%	1.78%

※ 2022年3月末基準時点における共通K P Iの対象となるファンド数は4本となります。

※ 当指標は、設立から5年が経過したファンドを対象として、リターン・リスク・コストを算出して表示しております。